

大学の森プロジェクト

森での体験が、社会につながる。

大学の森プロジェクトは、『話せる大学』の実践の場の一つです。自然の中には、成長の種があります。昨年度、自然共生サイトとして認定を受けた「札幌大学の森」をフィールドに、今年も学生が中心となって取り組んできた活動を紹介します。



■ 新メンバーを迎えて

2024年度の発足から3年目を迎えた今年度は、新たに1年生2名を迎え、総勢10名で活動をスタートしました。学年の内訳は、4年生2名・3年生1名・2年生5名・1年生2名。

■ 春の取組み

春学期は、4月のゴミ拾いから始まりました。新メンバーを迎えた最初の活動で、先輩と新入生が声をかけ合いながら、森周辺の清掃を行いました。続く4月下旬には、スズメバチ対策としてハチとり器を遊歩道周辺に設置。昨年の経験を活かし、効果的な配置を意識しました。

5月から6月にかけては、玄天祭に向けたネイチャークラフトの準備を進めました。材料集めや会場レイアウトの検討、掲示物の作成まで、学生が主体となって役割を分担しながら、一つの企画を形にしていきました。



■ 1年生インタビュー

今年、1年生2名が森プロに加わりました。森プロを知ったきっかけ、活動を通じて身につけたいこと、そして年度末の自分への期待を聞きました。



すびかさん
リベラルアーツ・1年

参加のきっかけは？

入学前に見たホームページで大学の森を知りました。もともと海より森派で、小さい頃はよく枯れ葉にダイブしていた私は、「すぐ行ってみたい!」と思うようになりました。

身につけたいことは？

サバイバル能力!!

年度末の自分への期待は？

この活動を通じて、植物の知識が身につくようになりたいです。



■ 玄天祭 ネイチャークラフト体験

6月20日(土)、玄天祭で「ネイチャークラフト体験」を開催しました。3回目となる今年は256人が来場し、昨年の216人をさらに上回る盛況となりました。当日は参加した多くの子どもたちや地域の方々に、森の素材を使った作品づくりを楽しんでいただくことができました。

玄天祭を終えてインタビュー 成長を感じたことは？



木村さん
歴史文化専攻・4年

トラブルもなく無事に終えることができ、安堵しています。材料が接着できずに困っているお子さんに「グルーガンを使おうか?」と声をかけたり、穴開け等のサポートを自ら申し出たりするなど、細かな状況を把握しつつ臨機応変に対応できるようになったことが大きかったと思います。3回目の開催で、接客対応に慣れてきただけでなく、準備の段階から見通しを立てて計画的に動けるようになった点にも成長を感じています。



隆之介さん
歴史文化・1年

参加のきっかけは？

森プロの先輩から声をかけてもらいました。もともと動物が好きだったこともあり、気付けば4月から継続して参加しています。

身につけたいことは？

さまざまな人と関わり、「知識を社会に役立てるような力」を伸ばしたいです。また、写真では伝わらない自然の魅力を、人に伝えたいと思っています。

年度末の自分への期待は？

まずは森の奥に入り、どんな生き物がいるのかを知ることから始めたいです。今年参加できなかった玄天祭に、来年はぜひ出たいです。